

三菱電機新社屋グランドオープニング総領事挨拶

日時：平成 28 年 3 月 4 日 16：30～

場所：三菱電機新社屋（Ratingen 市）

言語：ドイツ語

高宮 三菱電機国際本部長殿

Duin NRW 州経済大臣殿

Hendele メットマン郡郡長殿

Pesch ラーティンゲン市市長殿

ご来場の皆様

三菱電機のドイツにおける拠点として、ラーティンゲン市において本日、ショールームを備えた素晴らしい新社屋のグランドオープニングと事業拠点の拡大を皆様とともにお祝いできますことを、在デュッセルドルフ日本国総領事として大変うれしく思います。日本からわざわざお見えになった本宮国際本部長をはじめ、新社屋落成に尽力された関係の皆様に心からの祝意を表します。

三菱電機の設立は今からほぼ 100 年前の 1920 年代に遡ると伺っています。日本では先代天皇の治世に当たる昭和という時代の以前から、既に 1 万台の扇風機を生産していたほか、1930 年代にはエレベーターやエスカレーターを病院や百貨店に納入していました。三菱電機の戦後の発展の基礎は、既にこのころに築かれていたということでしょう。今日では、冷蔵庫や洗濯機等のホームエレクトロニクスにおいて、三菱電機は日本のリーディング・カンパニーの 1 つです。私もエアコン・シリーズの「霧ヶ峰」を東京にある自宅の寝室に使っていますが、最もエコノミーかつエコな室温・湿度設定をフレンドリーにアドバイスしてくれる素晴らしいプログラムもついており、リモコン・ディスプレイ上には一ヶ月間にどれくらい電気代を節約したかをブタの貯金箱のイラストが教えてくれます。三菱ブランドは、昨今のエネルギー事情に鑑み絶対に必要である省エネ機能においても非常に優秀であることを実体験として申し上げます。

産業分野においても、例えば公共交通部門に関しては、IT 技術を駆使して列車の安全運行や車両の管理を担うシステムを完成させており、バイエルン州はもとより、ドイツの各州のニーズにも十分に対応する潜在力を有しています。私の公邸のあるエアクラートからデュッセルドルフ市内まで、三菱のシステムがあれば当地の S バーンももっと便利になるであろうになあ、とは、エアクラート駅のプラットフォームから、20 分間の待ち時間の間、近くに住むニワトリの散歩行動を観察しながらしばしば思うことであります。

ここラーティンゲンの新社屋では、三菱電機製品ないし技術が実際に使われることになります。これらは、同社が誇る多様なラインアップの一部とはいえ、重要な部分を占めています。そして日本とドイツの技術の粋を結集した最先端技術に集まる世界からの視線が、当地に向けられるということは、日本とドイツの産業分野でのパートナーシップの成功例としても大変大きな価値を有するものです。

本日グランドオープニングを迎える三菱電機新社屋における将来の活動が、ラーティンゲン市、NRW州、そして日本の産業経済にとって大きな成果をもたらすことを希望しつつ、三菱電機の益々のご発展をお祈りして御挨拶に代えたいと思います。